

## 第3号議案

社会資本総合整備交付金(河川改修)  
一級河川石田川<sup>いしたかわ</sup> 太田市<sup>おおたし</sup>・みどり市

着工年度  
評価理由

平成12年度  
再評価後5年経過

## 1. 事業の目的

石田川流域は、都市化が進む中、河川の流下能力の不足や地域排水対策の遅れからたびたび浸水被害が生じている。

また、上流域には北関東自動車道の整備により住宅等の開発が進み、流域からの流出増が見込まれる状況にある。

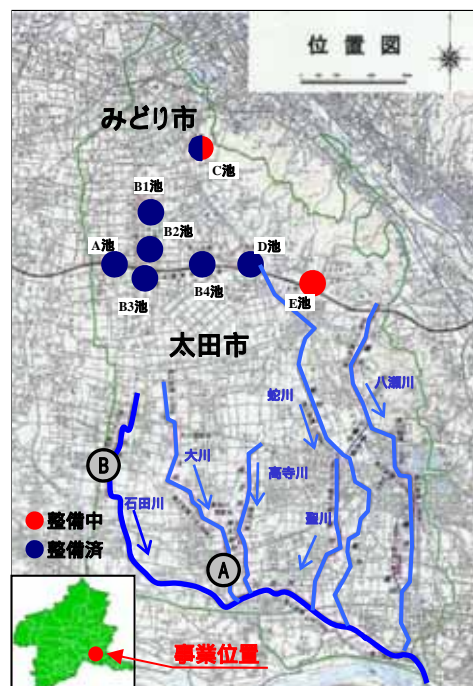
このため、下流域の石田川や各支川で進めてきた河道改修に加えて、一級河川の無い上流に流域からの洪水を一時的に貯留し、下流河道への洪水量を軽減するための調節池を整備することで、流域全体の治水安全度を高めることを目的としている。



大川 (太田市泉町)  
平成10年8月・出水状況



石田川 (太田市新田下田中町)  
平成10年9月・出水状況



## 2. 事業概要と進捗状況

## 事業概要

事業場所	おおたし きたかないちょう かがかけちょう 太田市北金井町、みどり市笠懸町 外	
	今回	前回(H21)再評価時
区分	今回	前回(H21)再評価時
全体事業費	8,940百万円	8,940百万円
全体事業費増減の理由	-	-
事業期間	H12~H28	H12~H28
事業内容	調節池 8池 調節容量 304,000m <sup>3</sup> (8池合計) 確率規模 1/30	調節池 8池 調節容量 304,000m <sup>3</sup> (8池合計) 確率規模 1/30

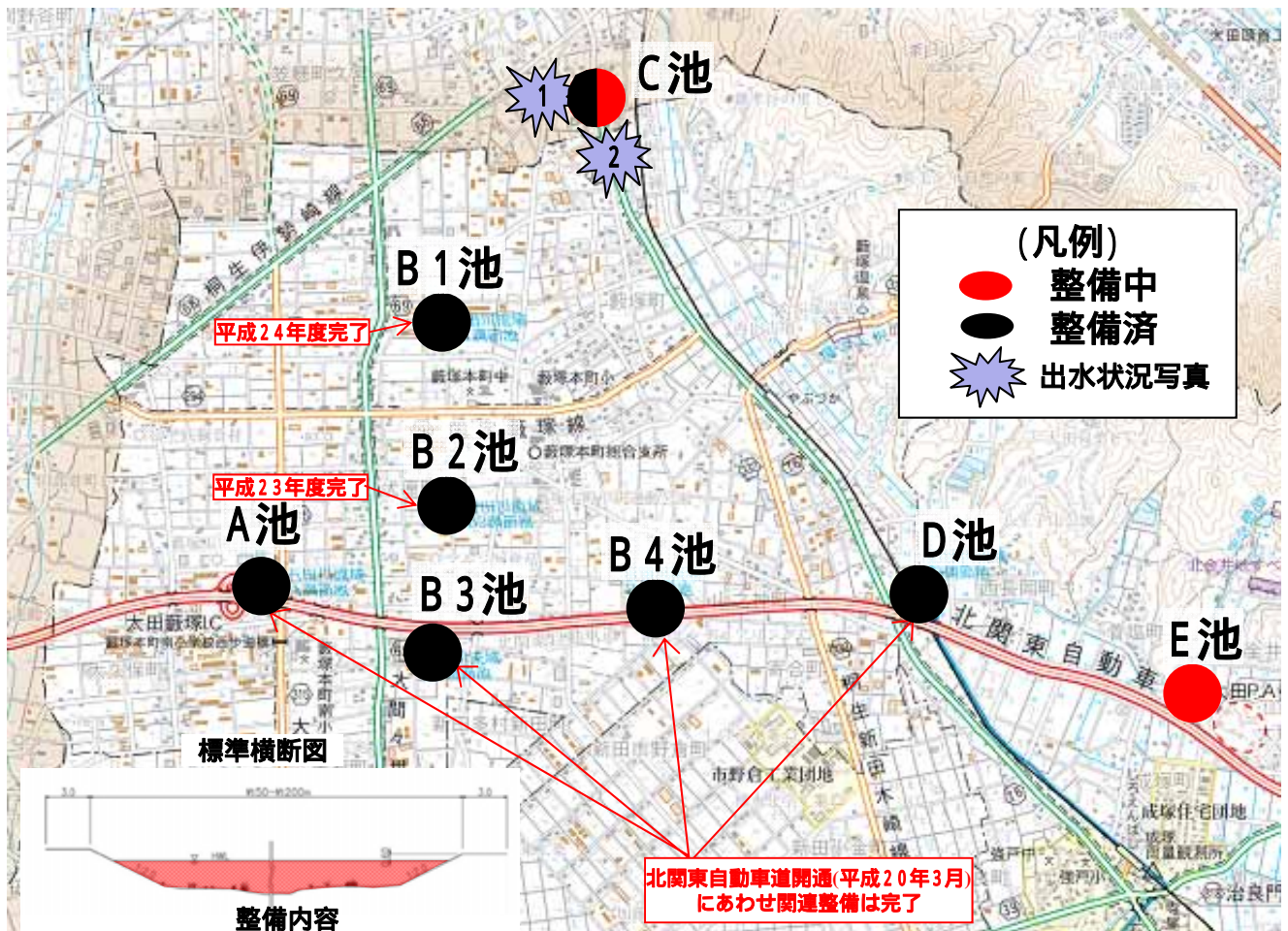
## 事業経緯

年度	主な経緯
H19	北関関連4池完成
H23	B2池完成
H24	C池用地買収完了
H25	B1池完成 C池埋蔵文化財調査 E池用地買収着手

## 進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の 進捗状況(H21) (進捗率)
事業費	8,940百万円	7,274百万円 (81.4%)	5,339百万円 (59.7%)
用地買収	241,800m <sup>2</sup>	210,900m <sup>2</sup> (87.2%)	115,900m <sup>2</sup> (47.9%)
計画箇所	8池	6池 (75.0%)	4池 (50.0%)

## 2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



整備内容  
調節池 8池

調節容量 $V=304,000\text{m}^3$  (8池合計)

【A池】(H19整備完)



【B3池】(H19整備完)



【B4池】(H19整備完)



【D池】(H19整備完)



【B2池】(H23整備完)



【B1池】(H25整備完)



【C池】(工事中)



【E池】(用地買収中)





### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

石田川流域では、現在でも豪雨等による浸水被害がたびたび発生している状況である。  
また、北関東自動車道の全線開通等による開発が今後も見込まれる地域であり、一級河川の無い上流域での一時貯留の流出先として、調節池事業の必要性は引き続き高い。

#### 大雨による出水状況

C池上流  
みどり市笠懸町  
平成12年7月豪雨



①



C池下流  
太田市藪塚町  
平成14年7月台風6号

②

### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

調節池が完成した地区では、雨水を調節池で一時的に貯留することで下流への流出を軽減しており、十分な整備効果が発揮されている。

流域全体を見据えた治水対策の手段としては、上流域の調節池と下流域での河道拡幅を一体的に整備することで効果の早期発現を図ることができる現計画が、最良の方法と考えられる。



【B-3池】

降雨時



平成25年10月  
台風26号

#### 費用便益分析

		計画・前回再評価時		今回再評価時		備考 便益説明
算出根拠マニュアル		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月		
基準年		平成20年		平成25年		
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比	
費用 (千円)	工事費	8,403,357	92.3%	8,936,525	91.3%	
	維持管理費	701,663	7.7%	853,688	8.7%	
費用合計 (C)		9,105,020		9,790,213		
便益 (千円)	一般資産被害軽減便益	4,805,949	34.2%	5,877,688	34.1%	氾濫面積 A = 1,614ha 浸水戸数 N = 5,198戸
	農作物被害軽減便益	90,848	0.7%	106,745	0.6%	
	公共土木施設等被害軽減便益	8,136,202	57.8%	9,967,022	57.9%	
	営業停止被害軽減便益	285,011	2.0%	305,570	1.8%	
	応急対策費用軽減便益	214,385	1.5%	408,645	2.4%	
	残存価値	541,333	3.8%	546,757	3.2%	
便益合計 (B)		14,073,728		17,212,427		
費用対効果分析 (B/C)		1.55		1.76		

## 5. 事業が長期間要している理由は？

【 元々が長期計画

不測の事態により長期化 】

8箇所合計で面積24ha、容量30万 $m^3$ の調節池を整備する大規模な事業であるため、元々長期計画となっている。

## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

本事業は、北関東自動車道が整備され、今後も開発が見込まれる地域において調節池の整備を進めているものであり、既に完成した6池において下流への流出軽減が図られている。

残る2池のうち、C池はH24年度に用地買収を完了し、H26年度から工事に着手している。

また、E池はH25年度から用地買収に着手しており、H28年度の完成に向けて重点的に事業進捗を図りたい。

本調節池事業は、流域全体の浸水被害軽減の観点から事業の必要性・重要性は高く、早期の効果発現を図ることができることから、事業継続が妥当である。